

令和7年度 第2回生涯研修会 受講者からの質問

ご講義に対する質問がありました。お時間があるときに返答して頂けたら幸いです。
以下のご質問があります。

- 1, 患者さんで舌垂全摘をした方がいるのですが、リハビリや食事支援を含め、どのように関わっていくことが良いのでしょうか。ご教授いただけますと幸いです。

舌垂全摘では、通常、摂食嚥下障害は重度にみられるはずですので、誤嚥や窒息に配慮しながら、食べる楽しみを支援することが大切になってきます（気管喉頭分離術を受けていれば別）。基本的には代償的な食べ方（姿勢や食形態の調整）を指導する必要性が高いです。舌接触補助床や口蓋舌床等の装置の作製も有効になります。嚥下精密検査を行い、精度の高い評価に基づき治療を行っていくことが大切です。味覚障害もみられるはずですので、嚥下調整食の摂取を行う上で、風味を活かし、目で楽しめる工夫なども考慮すると良いと思います。食事時間の延長により、食事摂取量が低下しやすく、低栄養の問題が出やすいため、栄養補助食品の活用法の指導や、精神的なサポートも重要です。

- 2, VE や VF の設備がない診療所では、やはり食物を嚥みでる様子を見て誤嚥してるかどうかを判断するしかないのでしょうか？

誤嚥の診断は精密検査を行わなければできません。外部評価では誤嚥が疑わしいかどうかの判断は可能ですが、不顕性誤嚥の場合は検出が困難になります。むせの有無だけで判断せず、湿性音の聴取や1口に対する嚥下回数など、様々な視点で評価をすることが大切です。嚥下機能のスクリーニング検査として、反復唾液嚥下テストや改訂水飲みテスト、EAT-10なども活用しましょう。

- 3, 最近のNST介入の回復期の患者様で、80代、胃、腸の部分切除、口腔内もほぼクロスバイトで嚥み合っておらず、それでも常食が食べたいとのご要望の方がいました。残念ながら、患者さんが歯科受診を固く拒否してしまい、義歯を作成することが出来ずにいました。ただ、嚥下機能は良好だった為、そのまま常食の提供となり、うまく回復し元気にもなっておられたので、良いのかと思ってはいたのですが、やはり怖いなどと思ってしまいました。

このような患者様を説得するには、歯科医師や病棟の他職種の説得が必要となるかと思うのですが、今回はうまくいかず歯がゆい思いです。

今後、歯科医師、他職種に協力を仰ぐ際、どのような伝え方が必要になるのか、宜しければご教授いただきたいです。

日々いろいろと努力されていることと思います。歯科医師や他職種との協働を行っていく上では、やはり顔の見える連携が重要になります。普段から話せる関係性を築く

ことが大切と考えます。私の場合は、積極的に相談していただけると嬉しいですが、相談しても反応が乏しい場合は、その時点では難しいでしょう。日頃から、お互いに感謝を伝え合い、承認しあうことで良好なチームワークが醸成していくと感じております。その結果、相談に耳を傾けてもらいやすくなると考えます。また、ミールラウンドは多職種連携を進めていくための鍵になります。もし、実施していない場合は、少ない症例からでもミールラウンドを立ち上げると理想的です。

- 4, 訪問歯科で口腔ケアに伺っています。認知症が進行し、指示が通らず開口が難しい患者様に遭遇する事があります。また、ご家族から「飲水しても飲み込まず、口腔内に溜めたままの状態になってしまい困っている」と訴えをいただく事があります。このような場合の対応をアドバイスいただけますと、ありがたいです。

このようなケースはよく遭遇しますが、試行錯誤するしかありません。口腔ケア（口腔衛生管理）への協力度はいかがでしょうか？試してみる取り組みの例としては、口腔周囲筋のマッサージや舌訓練、ガムラビング等を実施してみること、食べる際の姿勢に無理がないか確認すること、服薬の影響がないか確認するなど、他にも様々あります。

- 5, 72 歳女性。誤嚥性肺炎での入院をきっかけに体重減少していまい、体重増加を希望しています。若い頃から、顎が痛くなるので固いものは苦手だそうです。栄養バランスを考えながらカロリー高めの食べやすい食品を食べる、との指導でよろしいでしょうか。

その通りと考えます。ご本人の価値観や嗜好を尊重しつつ、効率よく栄養を摂取することで、体重を少しずつ戻していくイメージを持ちましょう。栄養補助食品の活用も効果的です。フレイルの対応に準じて支援していかれるとよいと思います。ご参考にしてください。

- 6, 食事に対して消極的な患者さんへのアプローチはありますか。

まずは患者さんの価値観を尊重することが大切と考えます。寄り添う姿勢で、かかわっていくことが大切です。医療者としての価値観や正論を押し付けすぎてもよくないので、傾聴に徹するしかないと思います。

以前は食べるのが好きな患者さんの場合は、味覚障害や嗅覚障害が出ていることがあります。そのあたりの問診をよく行ってみてください。